

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 3 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530974

研究課題名(和文)授業の文化的スクリプトに関する国際比較研究

研究課題名(英文)Cross Cultural Study for Reorienting the Cultural Script of teaching

## 研究代表者

サルカルアラニ モハメドレザ(Sarkar Arani, Mohammad Reza)

帝京大学・教育学部・教授

研究者番号：30535696

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、授業に深く関わる文化的スクリプトを解明することであった。異なる文化的背景を有する者の“レンズ”を通すことで、文化的コード(例：誤り、雰囲気など)の抽出が可能となり、考察(討論)を通して文化的スクリプト(例：主体的・個別的・構成主義的スクリプトなど)を明らかにすることができた。比較授業分析の結果、複数の文化的スクリプトが併存しており、時にそれらが協調したり競合したりしながら、授業が成立していることが明らかにされた。また、同一文化内では気づきにくい文化的特徴が相対化されるという比較授業分析の可能性が示された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to reveal the cultural script of the teaching. This study provides a cross-cultural learning opportunity for both Japanese and foreigner teachers and researchers 1)to learn from each other, 2) to analyze a lesson in practice, 3) to deliver evidence-based suggestions for improvement of the lesson, and 4) to look culturally at what actually goes on in the classroom. In particular, analysis of a lesson through different lenses and social-cultural backgrounds helped them to find a specific(their own) approach to localize a global approach of improvement and change the cultural script of teaching.

研究分野：社会科学

キーワード：授業研究 授業分析 比較授業分析 日本 イラン マレーシア シンガポール 文化的スクリプト

### 1. 研究開始当初の背景

日本型授業研究の海外移転とティーチング・スクリプトに関する先行研究には、TIMSS 授業ビデオ研究 (Borko et al., 2008)、授業の台本 (teaching script) (Shimizu, 2009; Nasir et al., 2008; Lewis, Akita & Sato, 2010)、授業観における教員の認識 (epistemic) の変化 (アメリカ: Perry & Lewis, 2009; シンガポール: Inprasitha, et. al., 2009; イラン: Sarkar Arani, 2006) などがある。これらの研究の中で、授業観に着目した研究では、授業についての教員メンタルモデルの転換必要性 (業績 4 と 5)、授業改善における相互に学び合う文化の重要性 (Lewis, 2011)、教師 (teacher) 中心から授業 (teaching) へと視点の重点を移動することの重要性などが指摘されている。特に欧米の授業研究の第一人者であるステイグラーは、授業で起きる大部分のことは、あたかも DNA が作用しているかのように、文化的コードによって決定づけられ、そのティーチング・スクリプトを解明するには新しい研究手法を実施することが重要だと述べている (Stigler & Hiebert, 2009)。しかし、これらはティーチング・スクリプトの重要性の指摘にとどまり、現実の授業に深く関ってティーチング・スクリプトを解明した研究はまだなされていない。そのために授業分析を通してミクロな実証的研究を必要とする。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、日本型授業研究モデルが移転されている海外の学校に対して逐語記録に基づく授業分析という研究手法を通して、授業に深く関わる文化的スクリプト (文化の台本) を解明することである。この目的を達成するために次の研究課題を設定する。逐語記録にもとづく授業分析を、共同研究国の研究協力校で定着させ実施する。国際比較授業分析のために、同一教科・単元の研究授業を複数の国の学校で計画し、実施する。各国の授業実践を基にして授業観 (授業規律・授業形態・授業技術・学力など) ならびにその差異を明確にするために、日本と海外の教員及び研究者の目から相互に比較授業分析をする。各国の授業観における差異から、ティーチング・スクリプトの基底となる教育観や学校観などを顕在化する。これまでの分析の結果に基づき、授業実践の背後にある心象、価値観、信念や習慣化された行動様式を明確にする。

### 3. 研究の方法

本研究における国際比較授業分析では、以下のような比較研究のアプローチを採用する。異なる文化背景を有する教育研究者や教師の目から、他国の実践を分析することによって、実践に隠れた意味 (コード) の構造 (スクリプト) を顕在化させることを企図している。つまり、典型化や平均化による比較研究

ではなく、異質性の交流による顕在化という比較研究のアプローチをとる。すなわち、異なる文化的背景を有する者のレンズを通してことによって、自明である文化的コードを抽出することが可能となり、さらに考察 (討論) を通して文化的スクリプトを明らかにすることができる。

研究の手順は、以下の通りである。授業記録にもとづき日本と海外の授業を分析し、授業の文化的スクリプトを構成するコードを明らかにする。明らかになった文化的コードを、背景となる学習に関する理論や、社会文化的特性と関連づけて、文化的スクリプトを明らかにする。文化複合の見方から、文化的スクリプトの全体構造を明らかにする。明らかになった文化的スクリプトを、教師の教材観や授業観と関連づける。さらに、比較授業分析の方法による知見を評価し、カリキュラム研究に対する意義を明らかにする。

### 4. 研究成果

(1) 【分析方法の探究: 比較授業分析】より詳細な授業の事実に基づき、ティーチング・スクリプト、すなわち授業の文化的スクリプトを明らかにするために、逐語記録をもとにした比較授業分析という方法を用いる。ここでは、他との違いを際立たせるために比較するのではなく、互いの異同から学び合うために比較している。すなわち、異なるレンズから見ることによって、お互いに学び合いの可能性が生まれる。また、授業は文化的実践であり、その成立には、DNA と同様に複数の要因 (コードやスクリプト) が複合的に関与している。本研究では、比較授業分析による授業の文化的スクリプトの解明を行い、さらに文化複合の見方 (conglomerate view of culture) にもとづき考察を行い、文化的スクリプトの全体構造を明らかにした。

(2) 【文化的コード (コ) と文化的スクリプト (ス) の構造】家庭的: 教師が生徒を「息子」と呼ぶ。教師が生徒に「間違ってもいいよ」と、誤りを受容する (コ)。一体感を感じる家庭的な雰囲気形成されており、個々の生徒をすべて等しく人格をもった人間として教師は受容している (ス)。制度的: 教えるものとしての教師と、学ぶものとしての生徒が対峙し、秩序立てられた時間と空間の中で、教師の指示によって授業が展開する (ス)。競争的、個別的、行動主義的: 問題演習を実施し、個人ごとに競争させる。教師は、成績の発表と優秀者への報酬を行う (ス)。主体的、個別的、構成主義的: ICT を活用し記号による表記と、図示を関連づける思考活動を促している。概念理解と手続き理解の双方を重視している (ス)。協力的、集団的、社会的構成主義的: グループ学習において、グループごとに異なる問いを出し、協力して答えを見つける活動を取り入

れている(ス)

(3)【文化複合としてのティーチング・スクリプト】本研究では、以上の5つのスクリプトが確認された。これらのうち、例えば、競争的と協力的の2つを取り上げれば2項対立の関係にある。これまでの一般的な比較研究では、どちらの要因の重みがあるかを問題としていたが、ここでは複合体(Conglomerate)として、双方を含み込んでいるという特性を重視したい。すなわち、歴史的文化的に様々な授業観や教材観が教師に流れ込んできており、それらが部分的には相矛盾するものであっても、併存しているということが文化的実践としての授業の本質の特徴であるといえる。

(4)【トランスカルチュラル・ラーニングの可能性】授業研究を例に挙げれば、ある意味ではローカルな文化に根ざした日本型の授業研究が、どの国にでも適用可能なグローバルな解決策となる可能性があるものとして、世界的に注目されているのであるが、その授業研究の移転にあたっては、その方法を移転するだけでは不十分であり、それぞれの国の文化や生活習慣に根ざした授業研究として深めていくことが必要とされている。授業研究の海外移転の中では、移転先の文化的社会的背景により授業研究そのものが変容していくことも少なからずある。したがって、こうしたことから、グローバル・ソリューションとともにローカル・ソリューションを導き出すことが必要である。

(5)【今後の研究課題】社会のグローバル化の中で、世界各国において、改めて「教えること」の原点に立ち返り、「教える人としての教師」の再評価と再構成が行われるようになってきている。すなわち、「教えるということ」(teaching)は、専門職(teaching as a professional practice)としての営みであることはもちろんのこと、「社会正義を実現することを使命とする」(teaching as a social justice mission)営みでもあり(McDonald et al. 2013; Ritchie 2012)。これを実現することが、世界各国の教師教育や授業研究の課題になってきた。こうした新たなグローバル・プロブレムに対して、どのようなソリューションが可能であるかが、今日最も重要な教育学研究上の研究課題であるといえる。

##### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

Sarkar Arani, Mohamamd Reza(2015). Cross Cultural Analysis of an Iranian Mathematics Lesson: A New Perspective

for Raising the Quality of Teaching, *The International Journal of lesson and Learning Studies*, Vol.4, No.2,118-139. (英語)(査読有)

Sarkar Arani, Mohamamd Reza; Shibata, Yoshiaki; Lee, Christine; Kuno, Hiroyuki; Matoba, Masami; Fong, Lay Lean; & Yeo, John(2014).Reorienting the Cultural Script of Teaching: Cross Cultural Analysis of a Science Lesson, *The International Journal of lesson and Learning Studies*, Vol.3, No.3,215-235 (英語)(査読有)

サルカール アラニ モハメッド レザ (2014).「ティーチング・スクリプトの変容をもたらす授業研究の意義-教科内容と教材に関する教師の授業観を中心に-」『帝京大学教育学部紀要』第2号 171-186. (査読無)

Sarkar Arani Mohamamd Reza (2014). Taghyeir Barnameye baraye Behsaziye Amuzesh [Changing Curriculum for Improving Teaching], *Roshd Moalem [Journal of Teacher Development]* (Published by Ministry of Education, Iran), Vol.30, No.8, pp.34-37. (頁数4)(ペルシャ語)(査読無)

Sarkar Arani, Mohamamd Reza (2013). *Parvareshe Honare Estedlal*[Promoting Reasoning Art], *Roshd Moalem [Journal of Teacher Development]* (Published by Ministry of Education, Iran), Vol.29, No.8, 8-12. (ペルシャ語)(査読無)

Sarkar Arani, Mohammad Reza; Tomita, Fukuyo; Matoba, Masami; Saito, Eisuke and Lassegard, P. James(2012). Teachers' Classroom-based Research: How It Impacts Their Professional Development in Japan, *Journal of Curriculum Perspectives*, Australian Curriculum Studies Association, Vol.32, No.3, 25-36. (英語)(査読有)

サルカール アラニ モハメッド レザ (2012).「教員のティーチング・スクリプトに関する研究-中学校理科の授業における「知識の活用」の国際比較授業分析-」『中等教育研究部紀要 学校法人名古屋石田学園』第4巻 9-36。(査読無)

Sarkar Arani, Mohammad Reza (2012). Farhange Amuzesh va Yadgiri[Japanese Culture of Teaching and Learning], *Journal of Anthropology and Culture*, (Journal of School of Art, Tehran University),Vol.2, No.1, 63-66. (ペルシャ語)(査読無)

サルカール アラニ モハメッド レザ・柴田好章 (2012).「実践記録海外の授業記録から-シンガポール中学校1年理科「いろいろな物質」-」『考える子ども』No.347,27-43。(査読無)

Sarkar Arani, Mohammad Reza (2012). Dars Pajohi: Nazariyeei baraye Amal [Lesson Study: A Theory for Improving Practice], *Journal of Elementary Education* (Published by Ministry of Education, Iran), Vol.16, No.3, 4-5. (ペルシャ語) (査読無)

[学会発表](計16件)

水野正朗・中村陽明・坂本篤史・サルカール アラニ モハメッド レザ・内田千春・宇土泰寛・和井田節子・柴田好章(2014).

「Dialogic Teaching in Classrooms-対話にもとづく知的学習-」『日本協同教育学会第11回大会発表要旨』創価大学(東京都・八王子市) 2014年10月24-26日。

サルカール アラニ モハメッド レザ(2014). 「授業の文化的スクリプトに関する国際比較研究-学習者の<誤り>に対する教師の対応を中心に-」『日本教育方法学会第50回大会要旨』広島大学(広島県・東広島市) 2014年10月11-12日。

柴田好章・サルカール アラニ モハメッド レザ・久野弘幸(2014). 「授業映像記録にもとづく比較授業分析-インドネシアの小学校における言語活動を促す授業過程を中心に-」『日本教育方法学会第50回大会要旨』広島大学(広島県・東広島市) 2014年10月11-12日。

サルカール アラニ モハメッド レザ・柴田好章(2014). 「授業の文化的スクリプトの複合的構造の解明-比較授業分析を通して-」『日本カリキュラム学会第25回大会発表要旨』関西大学(大阪府・吹田市) 2014年6月28-29日。

Sarkar Arani, Mohammad Reza (2014) Learning Community: Pathway to Empower Teachers through Reform Teaching, A paper presented at the First International Learning Community (Symposium session), 「学習院大学(東京都)」8-9 March, 2014.

サルカール アラニ モハメッド レザ(2013). 「授業の文化的スクリプトに関する国際比較研究-マレーシアにおける高校数学の授業観の分析を中心に-」『日本教育方法学会第49回大会発表要旨』埼玉大学(埼玉県・さいたま市) 2013年10月5-6日。

柴田好章・サルカール アラニ モハメッド レザ・久野弘幸(2013). 「授業逐語記録にもとづく比較授業分析-マレーシア高校数学授業における知識構成を中心に-」『日本教育方法学会第49回大会発表要旨』埼玉大学(埼玉県・さいたま市) 2013年10月5-6日。

柴田好章・サルカール アラニ モハメッド レザ(2013) 「比較授業分析による教育技術とその効果の顕在化-マレーシアにおける数学授業の分析-」日本教育工学会第29

回大会 ワークショップ 「秋田大学(秋田県・秋田市)」2013年9月20~23日。

Sarkar Arani, Mohammad Reza (2013). Madreseye Farda: dar Jostojoye Cheshmandaze Tazeh [Schooling for Tomorrow: Looking for a New Perspective], A lecture given at Iranian Association of Curriculum Studies, Tehran Intelligence House 「Tehran(Iran)」4 September 2013.

サルカール アラニ モハメッド レザ・柴田好章(2013). 「比較授業分析による授業の文化的スクリプトの解明-文化複合からの考察-」『日本カリキュラム学会第24回大会発表要旨』上越教育大学(新潟県・上越市) 2013年7月6-7日

Sarkar Arani, Mohammad Reza (2012). The Transformation of Teachers' Awareness for Improving Mathematical Instruction: From 'Know-How' to 'How to Know', *The World Association of Lesson Studies International Conference*, Nanyang Technological University 「Singapore (Singapore)」28-30 December, 2012.

Sarkar Arani Mohammad Reza (2012) Changing Teachers' Mental Model of Teaching: Learning from a Comparative Analysis of Science Lesson in Japan and Singapore, A paper presented at the World Association of Lesson Studies International Conference 2012 (Symposium Session), Nanyang Technological University 「Singapore (Singapore)」28-30 December 2012.

サルカール アラニ モハメッド レザ(2012). 「授業の文化的スクリプトに関する国際比較研究-シンガポールにおける中学校理科の授業観の分析を中心に-」『日本教育方法学会第48回大会学会要旨』福井大学(福井県・福井市) 2012年10月6-7日。

柴田好章・久野弘幸・サルカール アラニ モハメッド レザ(2012) 「授業逐語記録にもとづく比較授業分析-シンガポールの授業と比較して日本の授業の特徴をさぐる-」『日本教育方法学会第48回大会学会要旨』福井大学(福井県・福井市) 2012年10月6~7日。

サルカール アラニ モハメッド レザ・柴田好章・副島孝・水野正朗(2012) 「継続的な教師の成長を支える授業研究の要件」日本教育工学会第28回大会 「長崎大学(長崎県・長崎市)」2012年9月15~17日。

サルカール アラニ モハメッド レザ(2012) 「授業研究の海外移転の持続可能性に関する研究-教材研究に与えるナショナルスタンダードの影響を中心に-」日本カリキュラム学会第23回大会 「中部大学(愛知県・春日井市)」2012年7月7~8日。

〔図書〕(計4件)

サルカール アラニ モハメッド レザ  
(2014). 「授業研究のグローバル化とローカル化」日本教育方法学会 編『教育方法43: 授業研究と行内研修 教師の成長と学校づくりのために』図書文化 161-119.

サルカール アラニ モハメッド レザ  
(2013). 「比較授業分析によるティーチング・スクリプトの解明」的場正美・柴田好章 編著『授業研究と授業の創造』溪水社 41-58。

Sarkar Arani, Mohammad Reza; Rezaei, Alireza; & Sadughi, Zeynab (2013). *Parvareshe Honare Estedlal: Olgohaye Tabyeine Andeishah dar Farhange Amuzeshe Japan va America*[Promoting Reasoning Art: Styles of Explanation Thought in Japan and USA Culture of Education], Tehran: Tarbiyat Publisher. (総頁数372) 翻訳・ペルシャ語(査読無)

(渡邊雅子(2004)『納得の構造-日米初等教育における思考表現のスタイル-』東洋館出版社)。

サルカール アラニ モハメッド レザ  
(2012). 「授業研究会を通じた教師同士の学び合い」和井田 節子・柴田 好章 編集『協同の学びをつくる -幼児教育から大学まで-』三恵社 84-97。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

サルカール アラニ モハメッド レザ  
(SARKAR ARANI, Mohammad Reza)  
帝京大学・教育学部・教授  
研究者番号：30535696

(2) 研究分担者

石田 隆城 (ISHIDA, Takaki)  
星城大学・経営学部・准教授  
研究者番号：90351204

(3) 研究分担者

柴田 好章 (SHIBATA, Yoshiaki)  
名古屋大学・教育発達科学研究科・准教授  
研究者番号：70293272

(4) 研究協力者

中島 繁雄 (NAKAJIMA, Shigeo)  
深谷 孟延 (FUKAYA, Takenobu)  
石川 芳孝 (ISHIKAWA, Yoshitaka)  
坂野 久美 (BANNO, Kumi)  
水野 正朗 (MIZONO, Masao)